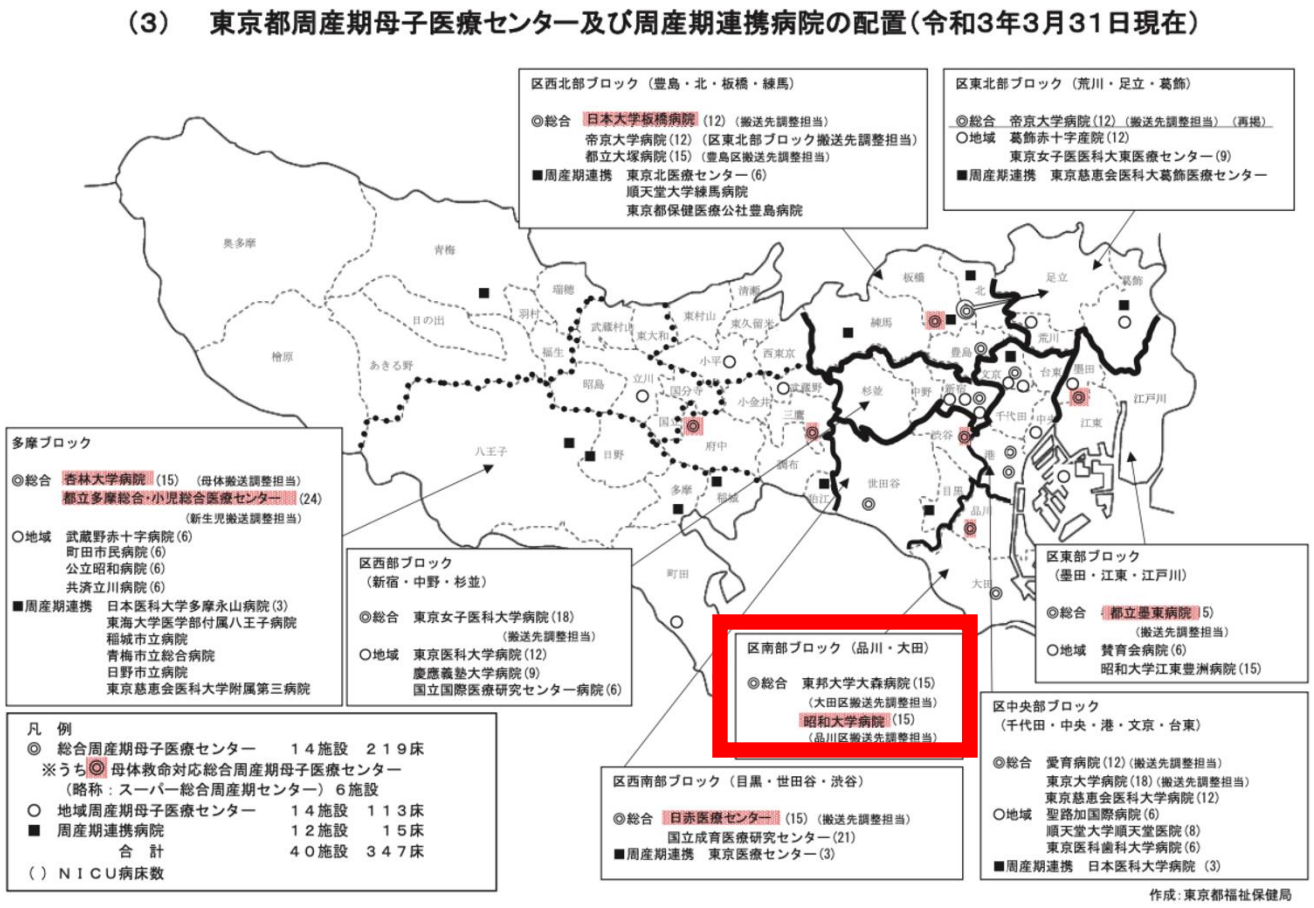
日本胎児心臓病学会スクリーニング委員会
東京都城南地区 アクションプラン

昭和医科大学医学部産婦人科学講座

松岡　隆

東京都医療圏



- 東西に長く、基幹施設の多くは頭部（23区）に集中（合衆国の様な状態：13医大、1国立センター病院）
- 分娩を取り扱わないオフィスギネコロジーが多い
- 一次施設分娩：東京都32%、佐賀県80%
- 患者さん：情報過多

城南地区（大田区・品川区）

- 出生数約8000人（品川区3183人（R5)、大田区　5152（R4))
- 施設毎分娩数：
  1. 昭和大学病院（1200）、T大学大病院（600）、
  2. T－二次施設病院（700）、 E-二次病院（430）、 M－二次病院（400）、 N－二次病院（350）　、O-二次施設病院（300）
  3. M医院（400）、O医院（500）、S医院（400）
- 分娩施設ではほぼ100％胎児エコー（形態スクリーニング）を施行している。
- オフィスギネコロジーでも検査技師を雇うか分娩施設でのリーニング（セミオープン）で胎児エコーを行っている

→患者さんのリテラシー（ニーズ）が高い

昭和医科大学病院のアクション

- セミオープン＋紹介
  - セミオープン：現在25施設の産婦人科（オフィスギネコロジー）と連携し、昭和医大で分娩管理の全例で初期中期胎児エコーを実施
  - 紹介：CHD/CHD疑いを受ける
  - フィードバック：コロナ禍まえはリアルカンファ、現在は個別訪問
  - 城南地区を面で支える

- CHD受け入れ先は東京都には数多くあるので、患者の移動は

地域のアクション

- 胎児エコーセミオープン
  - 2000年から開始してが、現在は殆ど使われていない。∵自施設分娩のスクリーニングで手一杯、セミオープンにより面で支えられるようになった
  - 分娩施設は自施設で胎児エコーをするのが当たり前になった

- 近隣の二次施設・一次施設では胎児エコー外来をオープン（スクリーニング目的以上に3D4Dが目的となっている）

- 患者さんの胎児エコーへの関心が高い（CHDへの関心では

今後

- 城南地区のみならず東京都下（近郊）では、胎児エコーが一般化しており、患者さんのニーズがたかい
- しかし、アンケート対象施設37施設（一次32，二次三次5）スクリーニングなし15一次施設の帰省分娩妊婦が漏れてしまう。

- 実施率向上のステージから検査品質向上のステージに移りつつある。検査技師（フリー、所属）のクオリティーチェック、大学病院での教育、症例フィードバックが地道に行っていく。→出来る場所で出来る人が超音波検査を行う。

- 出生前検査の一つとして胎児心エコーが特別なものでなくな